



答 辞

桜の蕾も色付き始め、暖かな日差しの中に春の訪れを感じる季節となりました。

本日は学長先生を始め、諸先生方、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、私たち卒業生のためにこのような心温まる式典を挙げてくださったことに、卒業生一同心より御礼申し上げます。皆様からいただいた祝福と励ましのお言葉を胸に、新しく始まる人生の第一歩を、大きな夢と希望を持って踏み出そうと決意しました。

二年前の春、私たちは期待と不安を胸に抱きながら、この作新学院大学女子短期大学部に入学しました。入学当初は短大生活の何もかもが新鮮に感じられ、環境の変化に不安や戸惑いもありました。しかし、温かく熱心に指導して下さる先生方や、同じ志を持つ仲間との出会いにより、とても充実した短大生活を送ることができました。

この作新学院大学女子短期大学部で過ごした二年間では、保育者になるという夢を叶えるためのかけがえない学びを得ることができました。日々の授業で保育の専門知識や実践的な技能を学んだり、実習で実際に子どもや保育者と関わり、子どもの発達や保育者の職務について理解を深めることができました。また、学外オリエンテーションやグループワークキャンプ、スポーツ大会といった行事など、様々な経験をすることができました。保育について様々なことを学んでいく中で、保育者の責任や職務内容の幅広さを実感し、自分に保育者が務まるのかと不安に感じたこともありました。実習で子どもと関わる中で保育をすることにやりがいを感じ、保育者になりたいという思いが強くなりました。

先生方には、日々の授業で貴重なお話をいただきました。それらは今後、人生を歩んでいく中で大きな支えになると思います。また、講義以外でも楽しくお話をしたり、時には相談に乗っていただくこともありました。私たち学生に、親身になって寄り添い、熱心に指導して下さったことに心から感謝しております。

さらに、二年間の学生生活で大切な仲間に出会うことができました。行事では、クラスで協力して取り組み、仲を深めることができ、どの行事もかけがえない思い出となりました。楽しく充実した学生生活を送ることができたのは、友人の存在があったからです。この二年間の中で、楽しいことも辛いことも多々ありました。その度に、気持ちを共有し、喜びあったり励ましあったりしてくれた友人に、心から感謝しています。毎日当たり前のように会っていた皆さんと、今までのように一緒に授業を受けたり、短大で会うことができなくなると思うと寂しい気持ちでいっぱいです。

そして、卒業を迎えたこの日まで、私たちを支え、見守り続けてくれた家族にも心から感謝しています。今の私たちがあるのは、家族が一番近くで夢を応援し、私たちの味方となって支えてくれたからです。うまくいかずに八つ当たりをしてしまうこともあり、今まで数々の迷惑を掛けましたが、これからは一社会人として自覚と責任を持ち、精一杯努力して生きていこうと思います。本当にありがとうございました。

二年間の学生生活を振り返り、自分一人の力だけではなく、多くの方々に支えていただき、この日を迎えることができたのだと改めて思います。私たちは四月から新しい環境でそれぞれの道を歩んでいくこととなります。辛いことや挫折そうになることもあると思いますが、今まで私たちを支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに、この二年間の学生生活での学びを糧とし、自分らしさを忘れずに歩いていこうと思います。

最後になりましたが、作新学院大学女子短期大学部のこれからの益々のご発展と、学長先生を始め、教職員の皆様のご健康、在学生の皆様の更なる飛躍を心よりお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

令和五年三月十九日
作新学院大学女子短期大学部
卒業生代表 川田 優奈